

## 四旬節第1主日

2016.2.14

ルカ 4・1-13

クラレチアン宣教会 ジョン神父

四旬節の季節が来るといつも断食のことを考えます。どうして断食するの？多くの人はこの断食という言葉をもっと正しく理解していません。ある人は灰の水曜日から始まった日から肉を食べない。もしくは少なくします。実際、誘惑のを断つための断食です。

断食の話をする、普通わたしたちは、性的な罪、うそをつくこと、いらだいたり、怒ったり、人に嫉妬したりすることだと考えてしまいます。

今日の福音で、イエスもまた誘惑に直面しました。最初の悪魔からの誘惑は、石をパンに変えることです。このことは、わたしたちに物質的なものに頼る生活ではなく、神の言葉に耳を傾け、み言葉を読むことがわたしたちの人生を生きる意味だということを示しています。

多くの人には豊かさを求め、本当の意味の人生は何なのかを忘れがちになります。いろいろな意味でお金を求めてしまいますが、彼らの心の中は空っぽです。神の言葉に従うことは、人生の意味を探すということです。

次の悪魔からイエスに対しての誘惑は、イエスが悪魔を礼拝したらこの世の全てのものが手に入るということです。この意味は、権力に対する誘惑です。例えば、会社の中、家族の中などで、権力を手に入れ他の人を支配することを好む人が多いと思います。しかしイエスが言っていることは、ただ一人の神のみを礼拝し他の権力になびくことの無いようにという意味です。イエス以外に取って代わるものはいないです。神は、謙遜にそしてお互いに尊重しあいながら力によらず奉仕することを教えています。

三番目の誘惑は、神を信頼するのかという試しです。わたしたちはお互い付き合いが深まっていくとき、神を信頼することが難しくなります。例えば、社会において神よりも人との付き合いや関係を深く持つてしまうと、神に対する信頼をする自信をなくしたり、家族の中や夫婦でさえ神を一番に信頼することが難しくなってしまいます。わたしたちは、互いに信頼するように、神に対しても信頼しましょう。

四旬節は、神のもとにわたしたちを呼び戻される季節です。この期間、わたしたちはお互いに、また神に対して、より良い関係を築くように努力しましょう。断食は神に対して回心をするわたしたちのしるしです。断食を通してわたしたちの内にある誘惑を乗り越えることが出来ます。わたしたちはシンプルな人生を学び、シンプルな人生からシンプルな人になるように学びましょう。そうすれば、神との関係を簡単に築けると思います。シンプルに、そして神を信頼し神の御言葉に従っていくことで、神と私たちの絆が強く近くなると思います。